

## 「今後のあり方」の骨子（作業部会案）

## ◎ 基本的な考え方

## ＜地方財政への寄与＞

金沢競馬は、これまで、その収益によって、県及び金沢市の財政に大きく寄与するとともに、県民をはじめ多くの人々に健全な娯楽を提供してきた。

## ＜金沢競馬の現状＞

- ① 社会経済情勢の変化等により、県営競馬は7年連続、市営競馬は8年連続で単年度赤字を計上する事態に陥っており、この間、盛況時に蓄えた基金を取り崩して赤字分を補っている。
- ② 今後も、現状のままで推移するとなれば、事業の目的である地方財政への寄与が期待できないばかりか、継続するためには、いずれ税金を投入せざるを得なくなる。

## ＜事業の現況認識＞

- ① 競馬事業継続への税金投入については、「県民・市民の理解を得られ難い」というのが共通認識である。
- ② 金沢競馬の置かれている現状を考え合わせれば、事業の「存続」「廃止」について、一定の方向性を出すべき時期にきている。  
さらに、単年度の赤字が続いている現状下では、結論を急ぐべきとの意見もある。
- ③ しかし、
  - ア 単年度収支における赤字幅の減少傾向
  - イ 石川県、金沢市での基金の保有（市は残高が乏しい）
  - ウ 金沢競馬が果たしてきた役割などを考えれば、ここ数年の状況だけでなく、今年度から取り組んでいる新たな振興策等の成果など、判断するにあたっては、今後の期待も含めて、ある程度の間、これらの状況を見定める必要がある。

<事業のあり方>

- ① 公営競技の目的とするところは、地方財政への寄与であり、このことは議論の余地のないところであって、収支均衡に止まらず、黒字化が大前提となる。
- ② 加えて、金沢競馬においては、
  - ア 厳しい生活状況に置かれている競馬関係者への手立てを講ずる必要性があること
  - イ 建築から30有余年を経て、施設が老朽化してきており、その対応が迫られていることなど厳しい課題を抱えるが、上記目的に即して、何よりも黒字化を目指す取り組みをなすべきである。
- ③ そのためには、
  - ア 入場者や売上額の減少に歯止めをかける対策を講じて、自場開催発売における収益性を高めること
  - イ 場間場外発売をさらに強化して収入確保を図ることが必要である。
- ④ 今後、一定の期限を設け、県民・市民にわかりやすい具体的な数値目標を掲げることとし、これに向けて、関係者が一丸となり更なる努力を重ねることが重要である。

<事業の見極め>

目標達成に向けては、改善策等の成果を常に点検しながら取り組み、その結果、一定の期限内において、将来、明るい見通しが立たないものとなれば、その場合の金沢競馬のあり方についても、提言に盛り込むこととする。